

やってみよう！国際交流








【問い合わせ先】
市民交流課 国際交流係 28-6014

市では国際化社会の対応を図り市民の国際認識と理解を深めるとともに、グローバルな人材育成や市民と協働による推進体制を進めるため、平成26年度に「四国中央市国際交流ビジョン」を策定しました。このビジョンを基に、国際交流、国際協力を発展・深化させるとともに、外国人市民にも暮らしやすいまちや企業の海外展開に関する支援事業などを行っています。

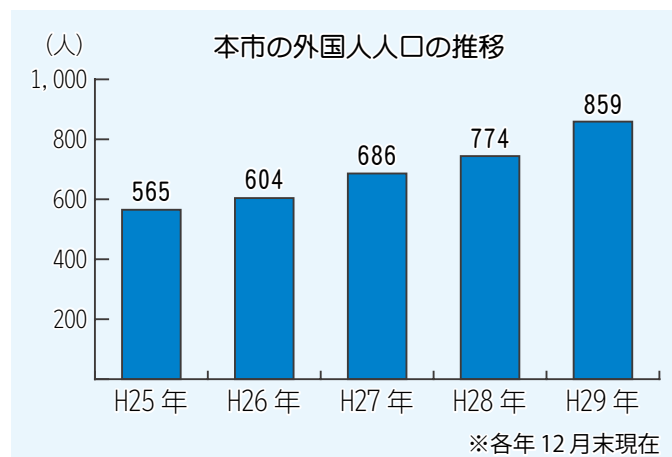
本市の外国人市民

市内では、文化や言語が異なる25か国、約860人の外国人市民が生活しており、年々増加傾向にあります。このうち約7割の600人が技能実習生で、国籍別では、ベトナム、中国、フィリピンの順に多くなっています。

国籍別人数（上位5か国）

	ベトナム	381人
	中国	231人
	フィリピン	120人
	インドネシア	38人
	韓国	33人

※平成29年12月末現在



内なる国際化

外国人市民が年々増加していく中、国際交流ビジョンの取り組み施策として、誰でも参加できる交流イベントの開催や防災への対応など、多様な文化が共生し、安心・安全な地域社会づくりを市民と協働で進めています。

そこで、市と国際化推進実行委員会が協働で実施している多文化共生事業についてご紹介します。

しこちゅ〜国際交流フェスタ

誰でも参加できる多国籍な国際交流イベントで、市民が各国の文化に触れるとともに、外国人市民に情報や学習の場を提供し、多文化共生のまちづくりを推進することを目的に開催しています。

会場では、ステージで民族舞踏が披露されるほか、世界各国の文化や食べ物などを紹介するブースが設けられ、さまざまな国籍の参加者が楽しく文化交流を行っています。また、外国人市民には、簡単な日本語やパネルを使って防災や交通安全について学習してもらったり、安全で安心して生活するためのグッズを紹介したりしています。4回目となる今年は、2月4日（日）13時30分から福祉会館で開催します（詳しくは広報1月号をご覧ください）。



災害時外国人支援事業

外国人市民の中には、日本語を十分に理解することができない方や、地震などの被災経験がほとんどなく、災害に対する知識がない方もいます。また日本人も、災害が発生した時に外国人にどのような支援が必要かなどを知らない方が多いことから、災害時の外国人支援に関する事業を実施しています。

外国人市民は、地域の防災訓練に参加したり、消防防災センターにある防災学習コーナーでの災害体験や防災グッズの使い方などの研修を行ったりしています。



また、外国人市民を支援する方たちは、東日本大震災や熊本地震で実際に行った外国人支援について話を聞き、情報伝達の方法やコミュニケーションの重要性について学習しています。今後、多言語による災害情報の提供や、やさしい日本語による外国人支援について研修を進めていきたいと考えています。

国際交流の窓口や交流事業を行っている団体など

四国中央市国際交流協会

「Think Globally, Act Locally」（地球規模で考え、地域に根ざした行動を）をモットーに、身近な国際交流、草の根レベルでの国際協力を目指し、年齢を問わず楽しく参加できる交流の場を作っています。青少年の国際感覚の育成を目的とした「中学生海外派遣事業」などのほか、「初心者英会話」や「ハロウィンパーティ」などの講座やイベントを企画し実施しています。



友好都市交流協会

本市は、中国安徽省宣城市と友好都市協定を結んでいます。宣城市は文房四宝（筆、墨、紙、硯）の産地であり、「宣紙」と呼ばれる書画用紙の産地としても知られていることから、「紙」が縁となり、友好都市交流協会（旧社団法人川之江国際交流協会）を中心に、これまで経済や文化、教育、体育など幅広い分野で交流してきました。これからも「紙」を通して、お互いの相互理解を深めていきたいと考えています。



国際交流員

市民交流課には国際化を推進することを目的とした国際交流員がおり、市が行う国際交流事業の企画・運営などを幅広く担っています。また、海外からの訪問客の通訳や書類などの翻訳、市内幼稚園や小中学校で外国に対する興味を持ってもらうための講座も行っています。

こんにちは！国際交流員のロシアです！



ロシア・ジュ
(ニュージーランド出身)

私が来日して2年半が経ちます。来日当初は、四国中央市のみなさんは海外のこと、特にニュージーランドについてあまり知らないかもしれないと思っていました。でも、来てみて驚きました。それは、市民のみなさんがニュージーランドのことを詳しく知っていたり、自ら国際交流をしたいという理由で、ハロウィンパーティや英語カフェなどのイベントに積極的に参加してくれたりする様子を見て、国際交流の意識が高いと感じたからです。

現在、市内には約860人の外国人が住んでいます。その方々の文化を学び、また、日本の文化を伝えることができる機会を、今後も作っていく必要があると思っています。

国際交流は、その国の言語を話せなくてもできることがたくさんあります。みなさんも一緒に活動してみませんか。